



<教育目標>

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

平成 28 年 7 月 20 日発行

No. 6 校長 矢口 仁

夏休みこそ読書を！ ー自分を豊かにしようー

校長 矢口 仁

図書館は学生の城 夏休み 富士谷 清也

明日から42日間の夏休みとなります。こんなに長く自分の意思で自分の時間を使える期間は、他にはありません。だからこそ、自己の成長のために目標をもち、計画的に、そして健康的に過ごしてほしいと思います。学習、部活動、健康・体力向上、普段できない体験的な学習……などを充実させてください。



そして、ぜひ取り組んでほしいことの一つに「読書」があります。本を読むことを続けると、言葉や知識が豊富になり、考え方の幅が広がったり、深まったり、そして、主体的に物事に取り組み、人間性が豊かになると信じています。

私たちが人と付き合っていく中で、人とぶつかる場面が時々あります。その考え方はおかしい、客観的ではないと相手を批判することがあります。しかし、もしかしたら自分の方が誤っているのかもしれない。それは、私たちが過去の経験や知識からしか、物事を考え判断できないからです。だとしたら、自分の経験の幅を広げ、知識や言葉を豊かにしていくことが、より正しく客観的な考え方に近づくことになります。その一助となるのが、「読書」による疑似体験（本物によく似ている体験）です。

昨年大河ドラマ「花燃ゆ」の一場面でのことです。彼らは、これからの日本がどうあるべきかについて、真剣な議論をします。その中で、学ぶことが大切だ、様々な文献を読むことが必要だと主張する一人の若者が、力強く語ります。

「本は文字ではない。本は人じゃ。開けば、触れることができる。他の人の考えに。江戸におる人も、外国におる人も、とうの昔になくなった人にも、出会うことができる。同じく悩んで、同じく答えを見つけようとした誰かがおって、教えてくれる。その人の目を見た、世の中の、人生のあらゆることを教えてくれる。生きるに迷うとるんは、自分一人じゃないことを……。」

私たちが人生の中で経験できること、会うことのできる人の数には限りがあります。しかし、本の世界では時代を越え、国を越え、見知らぬ人と出会い、様々な体験をすることができます。そのことが、自分を豊かにすることにつながります。より多くの人との出会い・貴重な体験を読書で味わってほしいと思います。